
復讐鬼

BlackQueen

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

復讐鬼

【Nコード】

N1576F

【作者名】

BlackQueen

【あらすじ】

普通な中学生の優は、ある人に突然、幸せな生活をめちやくちやにされてしまいます。その結果家族はバラバラに……。復讐を誓う優は、片思い相手に幼なじみでもあった龍の傍で、表情をなくし、復讐の為に生きていきます。果たして、優は恐ろしいような復讐を達成するのでしょうか？龍との関係は進展する？優によって人々の運命はどのように変わっていくのでしょうか？

プロローグ

「……お祖父ちゃん……。」

ここは東京某所にある、閑静な墓場である。この物語の主人公、仲居優は夏休み……お盆なので、家族と共に墓参りに来ていた。

墓の周りを箒で掃き、落ち葉を集める。墓前を綺麗にすると、優は一息ついた。

「……ねえ、お母さん……？」

祖父が病気で亡くなってから九年が経った。しかし、祖父の墓の周りには、墓が一つも建っていない。それが、優には疑問だった。

「何？ほら、優もお花と線香を供えなさい。」

「うん……。」

菊と饅頭、線香を供える。大好きな祖父の為に。優は優しい気持ちになっていった……。

第一話 平和な日常と再会

「優……。」

優しい笑顔が眩しい。銀に近い白髪に、細い体。

「何、お祖父ちゃん？」

優もニッコリ笑う。

「……おっきくなつたねえ。」

そう。祖父は会う度に言うのだ。大きくなつた、と。癖なのだろうか、頭をくしゃつと撫でながら。くしゃくしゃになつたけれど、優の肩に掛かる黒いショートヘアーはサラつと元の位置に戻る。

「お祖父ちゃん……。」

……久しぶりの夢だった。もう、声さえ覚えてないのに。会つたのだつてもう……覚えてないのに。今は中学生で、あの時は幼稚園だったから。

優は五人家族だ。父の真人、母の沙織、弟の康太と力也。ごく普通の、何も問題の無い家族だ。

「……ふう。」

墓参りから家に帰つてくると、とてつもなく疲れていた。眠くなつてくる。昼寝してしまつて、もう夕方だ。

「本屋行ってこよう……。」

読書が好きな優は本屋が好きだった。でもまだ、宿題の読書感想文を書いていない。夏休み後半なのに。別に図書館の本でも良かったのだが、新しい小説が欲しかった。

「……げ、もう……3時！」

立ち上がった。本屋に行きたかった。だから、夏休みは困る。眠くなるから。昼寝の誘惑に負けてしまう。

「へい、いらつしゃいっ!」

「……お願いします。」

魚屋のような掛け声。今どきの本屋は普通なのだろうか。

「ありがとやした!」

反対に優は冷静になっていく。

「……ありがとう。」

「……おい、お前……っ!」

本屋から出て来たと同時に、後ろから話し掛けられた。ビクッ、と反応してしまう。大人の男の人に、知り合いはいない。

「……な、何ですか……?」

一見、イケメンホスト。それが、推理ドラマのギャングだ。低い声が、凄く恐い。

「……忘れたのか?」

……中学生が、十歳近く歳の離れた異性と関わった事があったろうか。

「えっと……どちら様ですか?」

「……神野、龍だ。」

この、変わらない表情。優しい笑顔。ニコニコと言うより……ニヤリって笑い方。神野……。

「……龍……りゅーお兄ちゃん?」

「……思い出したいかい、優?」

笑みが深くなつた気がする。この場合、Youなのか優なのか。

この人は昔から、キザなのかクールってゆーか、訳の分からない性格をしている。

「……久しぶり！」

五年ぶりに会った。確か、最後に会った時はこの人は高校生だったから……。

「……もう、社会人？」

「ああ。一応、弁護士をやっている。」「凄い、かつこいいねえっ！」

弁護士は頭が良くないと出来ないだろう。

「……お前はもう、中学生か？」

「うん！二年生になったよ！」

「……でっかくなったなあ。」

……そうかなあ。この人は190センチ位で、私は160センチちょっと手前だから、身長差は激しいと思うんだけど。

「……あ、もう帰らないと。」

「……そうか、じゃあまたな。遊びに来いよ。」

「りゅーお兄ちゃん……か。」

小学生だったら、普通に呼べるけど。今じゃ……ねえ？五年の月日は大きい。

「かつこいい……なあ。」

初めてバレンタインデーに手作りチョコをあげた人。言うなれば初恋だ。

「彼女……いるの、かな？」

イケメンだから、十分ありえる。まず、私みたいなガキが近付けるのが奇跡だ。イケメン弁護士の未来は明るいよね……モテるだろうし。きつと、あの後たくさんの人と付き合ったのかなあ……。いやいや、あまり興味ないって聞いた事ある気もする……五年前に。

「……また、会いたいな……。」
いいよね、幼なじみなんだから。歳は十歳差だけど。そんなの関係ない。行こう。

……しかし、それから私が、すぐにりゅーお兄ちゃんと会う事は無かった。

第二話 変化の予感

十月のある日だった。学校から家に帰ると、家にはお客さんがいた。「お帰りなさい、優ちゃん。」

近所に住む、鈴木さんだ。母の友人と言うべきか。私はちよつと苦手だった。……化粧が濃くて、全身がブランドの物。髪は今風に茶髪ウェーブ。さらに言葉遣いが甘ったるい。だけど、誰も何も言わないから黙っている。荒波は起こすべきではない。弟達は完全に無視してゲームをやっている。

「……こんにちは。」

確かこの人には加奈ちゃんって言う娘さんが一人いて……私より一つ年下だったかな？……とにかく私はあまり好きじゃない。

「ああ、優。鈴木さんからケーキ頂いたの。食べる？」

……ケーキは好きだけど、目の前で食べたくない。

「後にする。テスト勉強の後に。」

勉強なんかする訳がないけど。

「……そう？じゃ、頑張りなさい。」

「偉いわねえ……加奈にも見習わせたいわあ。あ、もし良かったら勉強見てあ」

……それは恐らく、勉強を教えてやれと言う事か。言葉を全部聞かずに、私は自分の部屋に逃げ込んだ。

「ふん、上手く逃げた……ふう……。」

今は午後三時。いくらなんでもあと三時間で帰るだろう。それまで時間を潰す必要がある。

「……本でも読むかあ……。」

……その時だった。私が本棚から本を取り出すといきなり、触れていない所から、重い一冊の本が飛び出してきた。その本の角は、私の足の甲にクリティカルヒットする。

「いったあああっ！」

痛みの感覚では恐らく、痣が出来ている。見るのも嫌なので、脚を見ずに本を拾い上げる。

「……何だよ、一体……超痛い……。」

……ユーゴー作、ああ無情……。

「……レ・ミゼラブルか……。」

貧しい家族の為にパンを盗んだ主人公。脱獄を繰り返したおかげで十数年間も牢獄に入れられていて、服役が終わった時にはもう……中年に差し掛かっていた。でも、自由の身になっても犯罪者には社会の風当たりが強く、主人公の心は冷たくなっていく……。そんな中で、主人公はある有名な司教に出会い、人や神の愛を説いてもらう……。愛に目覚めた主人公は、たくさんの人の人生に深く関わりながら愛を深めていく……。

「……。」

凄くいい話なんだけど。私は……この話を読むと悲しくなっていくのだ。読み終わった時には号泣してしまう。主人公は、最後の最期に人からの愛を受ける。全ての人々に感謝しながら、彼は微かな命の火を消すのだ。私は……そんなの嫌だ。もっと……愛を満喫したい。永遠と思えるような愛を、恋愛を試みたい。

「……やっぱり……。」

りゅーお兄ちゃんに会ってこよう。今はテスト前で忙しいけど、来月辺り。ぜひとも龍さんって呼びたい。

「優ーっ！鈴木さんがお帰りよーっ！」

部屋の外から、母さんの声が聞こえる。

「……はーいつ！」

出来れば、そのまま帰って貰いたかったけど。私は『お見送り』をした。

その日の夜だった。九時になると寝る体質の私は、夜の十一時に目が覚めた。話し声が聞こえたからだろう。

「……ねえ……？」

お父さんとお母さんの声だ。

「……離婚を考えてる……。」

「だから……。」

……誰の話だろう？離婚って、この家が？家族バラバラになっちゃうの？二人とも怒ってるとかってゆう感じじゃない……。もう離婚調定結びきったとか！？

……やばい、こんな時に限って……眠くなってきた……！

「離れたく……ないよう……。」

私の人生は、明日からどん底に堕ちていくのかも……しれない……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1576f/>

復讐鬼

2010年10月14日09時12分発行